



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

西Ⅰ・西Ⅱ病棟夏祭りを開催して

児童指導員 田場 翔悟

8月8日(金)西Ⅰ病棟、22日(金)の西Ⅱ病棟にて夏祭りを開催し、多くの利用者さんやご家族の皆さまにご参加いただきました。プログラムでは、西Ⅰ病棟に「伊波正博民謡教室」及び「仲間和子太鼓教室」の皆さま、西Ⅱ病棟に「浦添市吹奏楽団」の皆さまをお招きし、沖縄民謡、太鼓にカチャーシー、昭和の懐メロソング、J-POPなど多彩な曲が披露されました。

利用者の皆さんは生演奏に耳を傾け、会場は大いに盛り上がりました。当日は各部署からの応援をいただき円滑に運営することができました。また、学生ボランティアとして、名桜大学や琉球リハビリテーション学院、北部看護学校からも多数ご参加いただきました。皆さまのご協力のおかげで、安全で楽しい夏祭りを開催することができました。今後も行事を通じて、ご家族やボランティアの方々との交流の機会を提供してまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い致します。



● 地域連携室だより

精神保健福祉士 長根山 由梨

地域医療連携室では初診の相談だけではなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関する相談、社会資源に関する相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。地域医療連携室の場所は受付隣となっておりますので、お困り事がございましたらぜひお気軽に連携室までお声かけください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学会理事。琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ443例になりました。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

入退院支援室のご紹介

入退院支援看護師 平安名 亜美

平成29年度より「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、医療ケアの継続を重視した方策へと転換し、地域移行に向けた取り組みが積極的に行われています。また、精神保健福祉法改正により、医療保護入院の入院期間が定められ、地域生活への移行を促進するために地域援助事業者や入院者支援員当との連携が一層求められるようになりました。このような背景を受け、令和6年10月から当院にも入退院支援室が新設されました。入退院支援室には入退院支援看護師3名、精神保健福祉士3名が位置されており、新規の外来・入院相談や病棟と連携しながらの退院支援を行うことで安心して入院医療を受けられるよう総合的にサポートしております。住み慣れた地域での安定した生活の継続を目指し、病院と地域をつなぐ役割として皆様からのご相談をお待ちしております。

看護部

副看護部長 木下 悦子

当院看護部は、「患者さん・ご家族の人権を尊重し、安全・安楽・安寧の得られる質の高い看護を目指します」という看護理念のもと、看護職員一人ひとりが相互に尊重し合い、「その人らしさを大切に」倫理を基本とした責任ある看護の提供ができるよう努めています。9月からは精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の看護師特定行為研修修了者が訪問診療だけでなく訪問看護にも参画するようになり、地域に向けた活動が拡大しております。

患者さん方に安心していただける医療・看護の提供のために、教育を充実させ、精神科医療に貢献できる人材の育成に取り組んでまいります。

令和7年度大規模地震時医療活動訓練のご報告

主任心理療法士 前上里 泰史

令和7年9月6日(土)に北海道・東北地方で令和7年度大規模地震時医療活動訓練が行われ、当院および沖縄県内から多くの医療機関が参加しましたので、そのご報告をいたします。災害想定は、令和7年9月5日11時、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震が発生し、全国のDPAT、DMATを持つ医療機関は指示された場所に参集する、というところから始まりました。当院は函館市にある五稜郭病院に参集し、その後市立函館病院に支援に入るよう指示があり、市立函館病院で精神病患者の対応にあたりました。沖縄県DPATからは、当院(福治院長、伊波看護師、前上里業務調整員)、沖縄県立精和病院、社会医療法人へいあん平安病院が参加したほか、多くのDMATも参加しました。訓練では新しくなったEMIS(広域災害救急医療情報システム)、JSPEED(災害診療記録)を駆使し、現状分析と課題の抽出、記録を行いました。活動拠点病院であった五稜郭病院には、自衛隊医療班も参加し、患者搬送を協同して行っていました。訓練後の振り返りでは、EMIS未入力の医療機関の情報収集、福祉との連携が課題にあげられました。



こども心療科について

心理療法士 新城 架乃

こども心療科では初診の際に、問診票の記載をお願いしております。受診の目的や生育歴、家族構成などの基本情報について確認し診察をスムーズに進めていくためです。問診票は、当院のホームページよりダウンロードできるようになっています。初めて来院いただく前に、問診票を記載の上でご持参いただくと、お待たせする時間が少なく、お話をうかがう時間を十分にとることができますのでご活用ください。また、『こども心療科の診察の基本的な流れ』の資料もご用意しておりますので、来院前にご覧いただくと見通しが持ちやすいかと思えます。今後も、相談にいらっしゃるお子さんやご家族が安心して受診いただけるような環境づくりに配慮してまいります。

※問診票等のダウンロード：琉球病院ホームページ【外来のご案内⇒子ども心療科/診察内容】のページよりご確認ください。